385 (単位) 時間の使い方

次期学習指導に関し中教審の論点整理が出て久しい。

同時に、中学校教科書採択に伴う次年度教育課程編成がまっただ中であろう。

とは言いながら、論点整理にあるように、如何に能動的な学習を盛り込むか、各教員がカリキュラム・マネジメントをおこなっていると思う。

※本文では教育課程とカリキュラムを同意と位置づけ、論点整理に関する部分はカリキュラムを用いている

さて、理科は学年によって履修時間が異なる。一番のネックは、中1の105時間だ。校種が変わり、学習内容や探究のしかたの習得、機器操作の習得、表現の高度化等を盛り込みながら、105時間で行わなくてはならない。もちろん、2年への積み残しは学習指導要領違反になる。

この上、「アクティブ・ラーニング」を盛り込むなど頭が痛くなってくるかもしれない。明日から学校で授業をすることとなったら大変だと思う。

さあ、どうするか。私(私人としての「私」)は、こう考えます。

$105 + 140 + 140 = 385$ で考えよう!

アクティブな学びは、知識とそれに伴う疑問や課題が備わってからにして、1年時は、従来の言語活動や通常の探究活動に留め、機器操作やグラフ・レポート・文書表現の「基礎」を身につけ、3年間の理科の学びの「基本」を身につけることに集中することだ。

※ここで、基礎と基本の使い分けをしていることに注意!

2年生になると、中学校理科の醍醐味、つまり、自然界をつくる小さな粒子を学びます。難しいが、我々の生活と密着している。それが、電流や生物にまで関わっている。これらの教材を上手に使い、知識をもとに、そう簡単に答えのない身近な話題について考えたり研究を行うといいだろう。(前期後期各3時間、計6時間程度確保)

そして、3年生になると3年間の知識と常識をもとに答えが見つからない(でもなんとか解決したい)環境やエネルギー問題(それを宇宙に関わらせてもよい)を議論させたいと考える。(2学期は受験に向けての進度に関わるので、実践は夏休み前後と3学期)

公開授業的には盛り上がらなかつたり、だれもがやっているかもしれないが、次期学習指導要領が目指す学びであることは間違いない。

中学生の理性ある深い学びを目指し、実践してあげてほしいものである。

さあ、中学校の先生方、成果は20年から30年後、今教えている生徒がすばらしい仕事をするように種をまこうではありませんか。